

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/11 (5/4との比較)	5/11 (5/4との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
カナダ 	AAA	2.38% (+0.05)	85.50円 (+0.67%)	+2.9% 2017年4Q	1.25%	雇用統計などの経済指標が発表され、失業率は市場予想通りとなるものの、雇用者数は市場予想を下回る結果。原油価格が上昇した流れなどを受け、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	小売売上高やCPI（消費者物価指数）などの発表を予定。NAFTA（北米自由貿易協定）関連の不透明感が重くのしかかっていることなどから、国債利回りの推移には注意が必要。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	9.02% (+0.30)	30.38円 (▲1.71%)	+2.1% 2017年4Q	6.50%	小売売上高やIPCA（拡大消費者物価指数）などが市場予想を下回る結果となったことや、大統領選挙をめぐる不透明感が示唆されていることなどから、国債利回りは上昇。レアルは対円で下落。	中銀の金融政策決定会合などを予定。かねてより追加利下げに踏み切ると予想されていることから、国債利回りの推移には注意が必要。混沌とした大統領選挙の情勢を背景に、為替市場は上値の重い展開を予想。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 据え置き局面		
メキシコ 	A-	7.55% (+0.09)	5.63円 (▲0.56%)	+1.2% 2018年1Q	7.50%	鉱工業生産は市場予想を上回る結果。NAFTA再交渉において、自動車の関税をめぐる原産地規則など、複数の項目において合意に至ることができずに終了したことなどが嫌気し、国債利回りは上昇。ペソは対円で下落。	特段重要な経済指標等の発表はなし。NAFTA再交渉の協議は難航しているものの、引き続き協議は続けるとの発表があり、メキシコの選挙にも影響することなどから、今後の行方には注意が必要。
	A3	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。




※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/11 （5/4との比較） 今後の見通し （※4）	5/11 （5/4との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.78% （+0.01）	82.49円 （+0.26%）	+2.4% 2017年4Q	1.50%	市場予想を下回る小売売上高や米国のイラン核合意からの離脱を背景とした、リスク回避の動きが先行したものの、米経済指標の軟調な結果を受けた米ドル円の動きに伴い、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは概ね横ばい。	賃金指数や失業率、雇用者数変化などの発表を予定。市場予想が中銀の見通しと概ね同じものの、長期平均と比較すると低い水準にあることから、豪ドルは安値圏でもみ合いの推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.73% （▲0.06）	76.16円 （▲0.58%）	+2.9% 2017年4Q	1.75%	中銀は10日の理事会で政策金利の据え置きを決定。中銀総裁は、相当期間緩和的な金融政策が維持される見通しとの見解を示唆。ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	中銀総裁は、緩和的な政策の当面の継続や、次の政策措置の方向が時間の経過やイベント次第との見解を示唆。政策金利は当面同水準が維持されると見込まれ、債券・為替市場は一進一退の推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.93% （+0.08）	13.46円 （▲0.60%）	+1.4% 2017年4Q	0.50%	発表された鉱工業生産やCPI、生産者物価指数などの経済指標は、まちまちの結果となったことなどから、ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは上昇。	貿易収支やGDP（国内総生産）など、先週に引き続き重要指標の発表を予定。今年の夏以降に実施される可能性が示唆されている利上げに対し、判断に影響が与えられる内容となるか引き続き注意が必要。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/11 （5/4との比較）	5/11 （5/4との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	7.74% （▲0.01）	8.91円 （+2.08%）	+1.5% 2017年4Q	6.50%	鉱物生産量や製造業生産が市場予想を大幅に下回る結果となったものの、材料視されなかったことなどから、国債利回りは概ね横ばい。対外要因を背景に、ランドは対円で上昇。	小売売上高などの発表を予定。政治改革の更なる進展などが期待されるものの、足元では最低賃金をめぐる労働組合との対立などもあり、債券・為替市場は共に上値の重い展開を予想。
	Baa3	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	6.90% （+0.30）	0.78円 （+0.01%）	+5.1% 2018年1Q	4.25%	外貨準備高は3カ月連続で減少。1-3月期GDPは前四半期から鈍化。中銀総裁はルピアの支援のため政策金利を調整する可能性を示唆したことなどを背景に、国債利回りは上昇。ルピアは対円で概ね横ばい。	金融政策決定会合などを予定。米ドル高や米国金利上昇への警戒から、ルピア安の圧力が高まる。中銀がルピア支援のため、政策金利を調整する可能性を示唆したことなどから、利上げの有無が注目。
	Baa2	→ 金利横ばい	→	↑ 景気拡大	→ 据え置き局面		
インド 	BBB-	7.83% （+0.05）	1.62円 （▲0.45%）	+7.2% 2017年4Q	6.00%	鉱工業生産は市場予想を上回る結果。米政権のイラン核合意の離脱に伴うリスク回避の動きや、原油価格が上昇などから、ルピーは対円で下落。ルピーが下落したことを受け、国債利回りは上昇。	CPIや貿易収支などの発表を予定。足元で原油価格が上昇していることなどから、貿易収支の結果には注目。引き続き米国を中心とした対外要因には注意が必要なものの、債券・為替市場は概ねレンジ内での推移を予想。
	Baa2	↑ 金利上昇	→	↑ 景気回復	→ 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

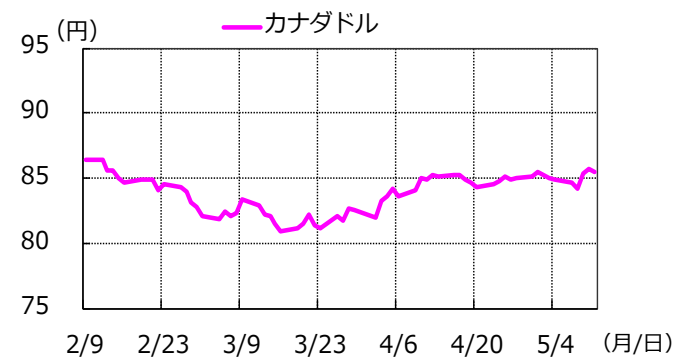
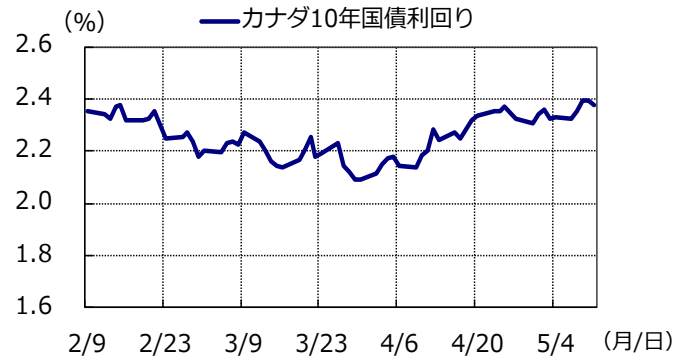
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

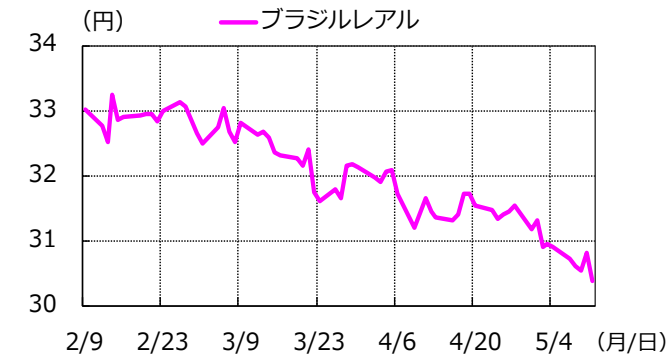
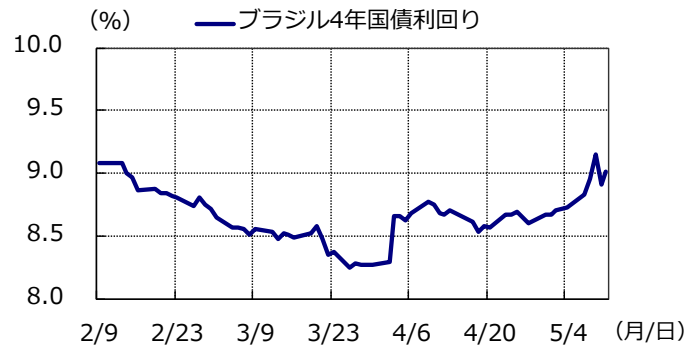
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/2/9～2018/5/11

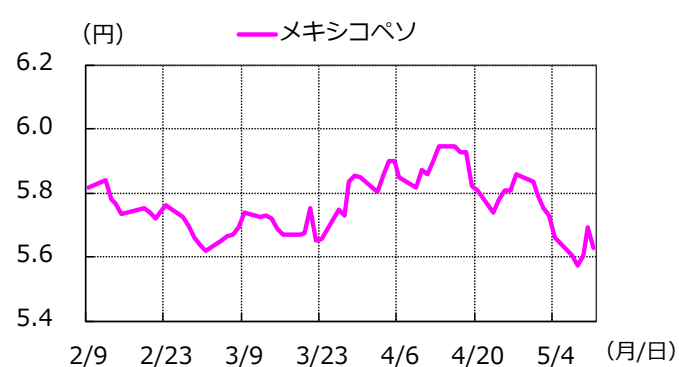
カナダ



ブラジル



メキシコ

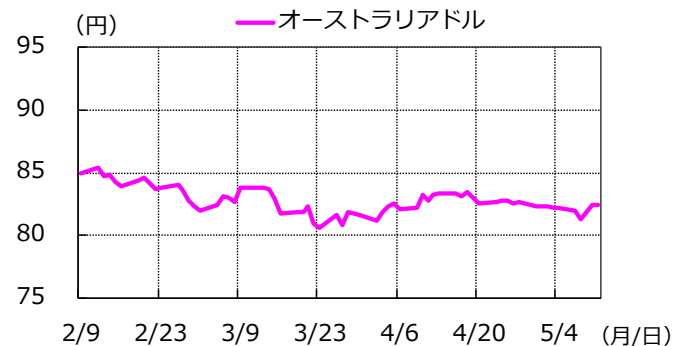
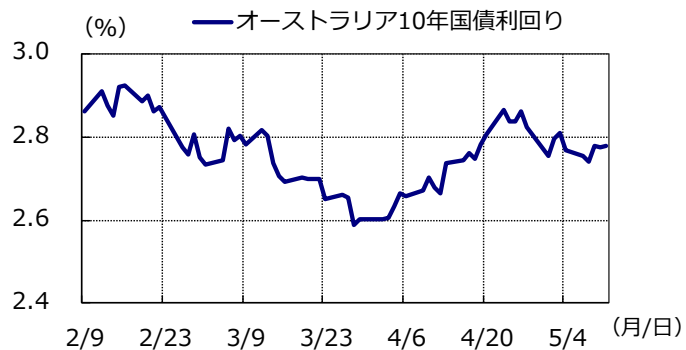


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

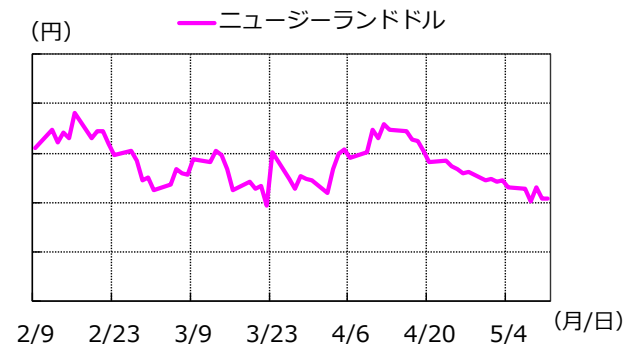
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/2/9～2018/5/11

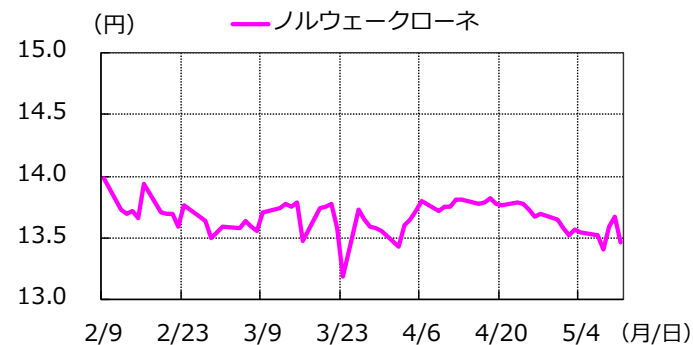
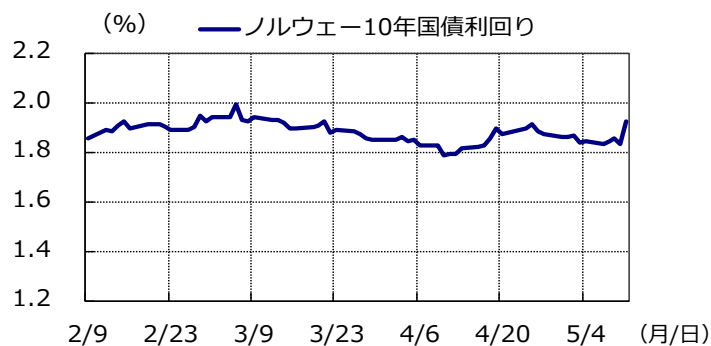
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

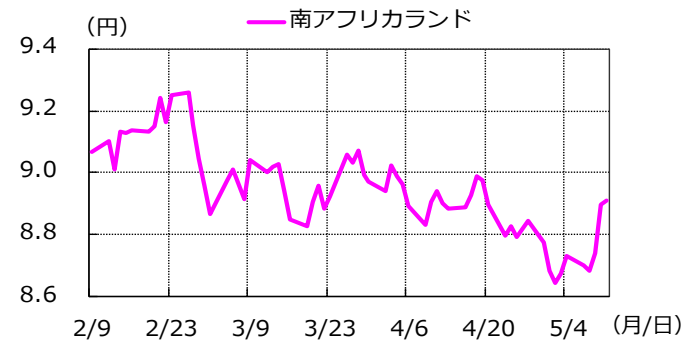


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/2/9～2018/5/11

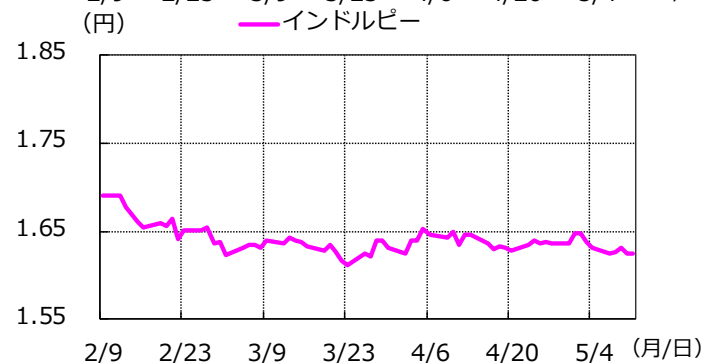
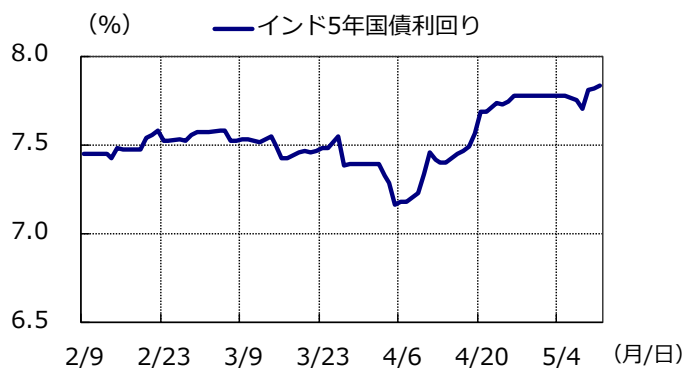
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。